5 BizXaaS MaP®

刻々と変化する生きた位置情報でビジネスを進化させるGIS／人流分析プラットフォーム「BizXaaS MaP®」

株式会社NTTデータ（以下、NTTデータ）は、多彩な位置情報コンテンツと各種アプリケーションの活用をワンストップで支援するプラットフォーム「BizXaaS MaP（ビズエクサースマップ）」を提供している。本稿では、「BizXaaS MaP」の実績及び今後多方面において拡がりが期待される人流データの活用について紹介する。

多彩な位置情報コンテンツ・アプリ・APIでお客様の業務シーンに最適なソリューションを

2003年からサービスを開始したBizXaaS MaPはGIS※1を活用し、ゼンリンの住宅地図を始めとする多彩な位置情報コンテンツと、各種アプリケーション、APIを連携させることにより、お客様の課題を解決に導いてきた。現在では、BizXaaS MaPの提供先は流通・小売、金融、不動産など複数業種300団体を超え、多くのお客様から高い評価を獲得している。

実績豊富なAPIを用いたシステム連携で様々な業務シーンに適合していることに加え、更新作業が不要で常に最新データを利用できること、お客様独自のシステムとの連携が可能であること、スマートフォン・タブレットでも利用できるといった点もBizXaaS MaPの大きな魅力だ。

「地図情報×クラウド」のその先へ。GISの進化

日々のコロナ感染者数に関する報道等から、人流データは私たちの暮らしに身近なものとなった。人流データに限らず、動的コンテンツをDXに活用したいという気運の高まりを実感していると杉本氏が述べるとおり、従来のGISの活用を超えた「地図情報×クラウド」にとどまらないリアルタイムな情報の提供が各方面から求められている。

こうしたニーズに応えるべく、BizXaaS MaPも、従来の“静的地理空間データ”を視覚的に表現するGISから、人流等の“動的地理空間データ”をピンポイントかつリアルタイムで分析・予測するGIS「ロケーション・インテリジェンス」へ進化を遂げている（図1）。

株式会社NTTデータ
コンサルティング＆ソリューション事業本部
デジタルビジネスソリューション事業部
（左）部長　大場 敏文氏
（右）課長　杉本 直子氏

新サービス「BizXaaS MaP 人流分析」

NTTデータは2021年10月に人流をリアルタイムに分析、予測でき

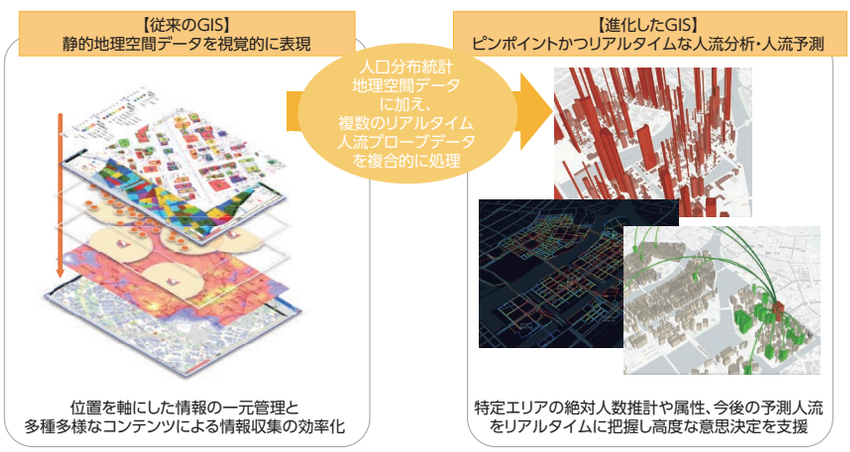

図1　従来のGISと進化したGIS

る「BizXaaS MaP 人流分析」サービスの提供を開始した。これによって、特定エリアの推計人数（絶対数）や性・年代・居住地割合などの属性、今後の人流予測をリアルタイムに把握することが可能となった。

BizXaaS MaP は、これまでも「モバイル空間統計® 国内人口分布統計（リアルタイム版）」をラインナップに追加することで 500 mメッシュ単位における性年代別人口や居住地割合を、ほぼリアルタイムで可視化、過去からの推移を分析できるサービスを提供してきた。特定のアプリをダウンロードしている人だけをカウントする人口統計の作成方法とは異なり、ドコモ基地局の運用情報をもとに推計※2を行うため信頼性が高い点に特長があるが、エリア粒度が荒いのが課題だった。この課題に対して「BizXaaS MaP 人流分析」サービスでは、建物単位、道路単位での人流を分析することが可能となった。また、BizXaaS MaP のビッグデータ処理技術に加え、AI 予測技術・並列分散処理ノウハウを使い、将来人流予測を実現。従来の統計データを使った予測では実現できなかった、リアルタイムな人流変化を反映した高精度な需要予測を可能にしている。

人流分析と予測がもたらすビジネス成果

NTT データは、GIS データに、自社の強み、すなわち地理空間処理、生プローブデータ解析、プローブ状態把握※3、マルチソース処理、拡大推計※4 といった自社が有する要素技術とを掛け合わせることでミクロな人流分析と予測を実現している。以下に、2 つの活用事例を紹介する。

◆事例 1 ：小売業

これまで小売店の出店候補地の探索にあたっては、GIS データを活用するにしても、500 m メッシュでのポテンシャル調査や人手による人流カウントが主流であった。この方法では大きな労力を要するうえ、真に最適な出店候補地を選定することは難しい。しかし、ピンポイントかつ実数で人流情報を把握することで、メッシュ内では平均化されて見えなかった好条件物件を、人手をかけずに自動抽出することができる。また、リアルタイムで周辺の人口・来店数・今後の予測を把握することで、発注・在庫管理・シフト管理の精度向上を実現。機会損失や製品廃棄の削減等、売上向上につながる効果が期待できる（図 2）。

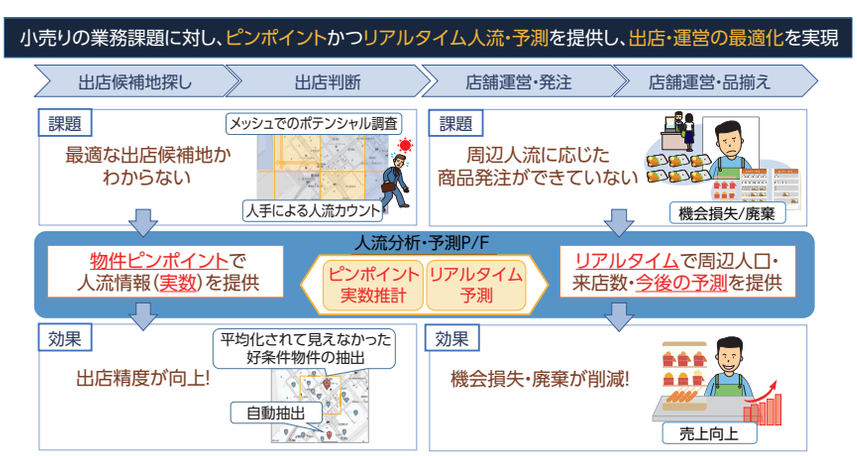

図 2　活用事例 (小売業)

◆事例 2 ：まちづくり

施設ごとの訪問人数や滞在時間などを基に、訪問施設間の傾向や相関を分析することで、まちづくりの計画に貢献する。例えば、相関の高い施設を結ぶ導線上に、立ち寄りスポットを設けることでより多くの体験や購買を促したり、人出を予測してイベントでの密を回避することで快適な空間を提供したり、来訪者・店舗にとって魅力あるまちづくりを提供し、スマートシティ実現に寄与する。

BizXaaS MaP で社会に貢献

BizXaaS MaP の活用はビジネスに留まらない。防災、見守り、渋滞対策等への拡がりも期待される。大場氏は今後の抱負について次のように述べている。

「リアルタイムの情報提供は予測を伴ってこそ意味があると思います。今後パートナーとの共創を通じて様々なコンテンツを組み合わせ、BizXaaS MaP の価値を高めるとともに、近未来を予測することでお客様のビジネスを進化させ、社会に貢献していきたいと思います。」

※1　Geographic Information System：地理情報システム。地理的位置を手がかりに位置に関する情報を持ったデータ『空間データ』を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能とする技術
※2　NTT ドコモの全国の基地局のエリア毎に、所在する携帯電話の台数を集計し、ドコモの普及率を加味することで人口を推計
※3　滞在・移動判定、移動手段などの状態把握
※4　複数情報を掛け合わせることで、絶対数や変化を推計